

## 川面から水辺の景色を満喫

●鷹巣東小学校のいかだ下り



▲ふるさとの川に親しんだ、鷹巣東小のいかだ下り

鷹巣東小学校（佐藤修校長）のいかだ下り体験が、7月9日に同校近くを流れる米代川で行われ、児童41人がいかに乗って川下りを楽しみました。同校のいかだ下りは、ふるさとの川に親しもうと毎年7月に開催している恒例行事。いかだの大きさは、一辺が2メートルほどで、タイヤチューブや板、竹の棒などを組み合わせて、児童たちが協力して製作しました。児童たちは、ライフジャケットを身に付け、向黒沢の川岸から約2キロ下流のゴールを目指し、川の流れに合わせて下るいかに水辺の景色を眺めたり、オールをこいでスピードを上げたりして、思い思いのペースで川下りを満喫していました。

## 技能者と一緒にもものづくりに挑戦

●第13回ものづくりふれあいフェア



▲技能者から手順などを教わり、ミニ花置台づくりに挑戦する子どもたち

第13回ものづくりふれあいフェア（秋田県職業能力開発協会主催）が、7月2日に鷹巣体育館で行われ、多くの親子連れなどが来場し、技能者と一緒にものづくりに挑戦しました。この催しは、若者にもものづくりの大切さを伝え、進んで技能者を目指す環境の整備を図るために行われています。会場では、卓越技能者による「漆の箸づくり」や「万華鏡づくり」、「ミニ花置台づくり」など11種類のものづくり体験ができるブースが設置され、子どもたちは技能者から作り方を習いながら、ものづくりを体験しました。各ブースでは、子どもたちが熱心に制作した完成品を両親に見せて、親子で喜び合う光景も見受けられました。

## 助け合いのまちづくりを目指して

●北秋田市地域づくりフォーラム



▲新たな生活支援のあり方などを模索した北秋田市地域づくりフォーラム

北秋田市地域づくりフォーラムが、6月29日に市民ふれあいプラザで開かれ、市民など約250人が参加し、ともに支え合う助け合いのまちづくりについて理解を深めました。フォーラムでは、公益財団法人さわやか福祉財団会長の堀田力氏が「みんなで支え合う地域をつくらう」と題して基調講演を行いました。堀田氏は「助け合いに専門技術は必要ない。できることは生活支援の範囲に限られるが、助け合うことでお互いの絆ができ、どちらも元気で楽しく、いい人生になる」と語りかけました。また、ワークショップやパネルディスカッションも行われ、新たな生活支援の仕組みづくりなどを模索しました。

## 立ち直りを支える地域のチカラ

●第66回社会を明るくする運動 市民集会



▲地域全体で犯罪や非行のない明るい社会を築こうと呼びかけた市民集会

第66回社会を明るくする運動の市民集会が、7月13日に市民ふれあいプラザで開かれ、市内の29団体から約300人が参加し、犯罪や非行のない明るい社会を築こうと呼び掛けました。今年の重点事項は「出所者等の事情を理解した上で雇用する企業の数を増やすこと」や「薬物依存からの回復と社会復帰を長期的に支える地域の環境を作ること」などです。市民集会では、津谷市長が「地域で連携することによって、人と人が支え合う社会ができていく」などとあいさつ。また、5人の中学生が作文を発表し「人の心を理解する大切さ」や「若者の思いやりの気持ちが明るい社会につながる」などと語りかけました。

## 消防操法を競い合う

●北秋田市消防訓練大会



▲真剣な表情で訓練に取り組む団員たち

平成28年度北秋田市消防訓練大会が、7月10日に合川農村環境改善センター駐車場で開かれ、市内13分団のうち5分団から165人が参加し、日頃の訓練の成果を披露しました。訓練大会は、消防操法を習熟し、消防力の強化を図ることを目的に毎年開催されています。規律訓練とポンプ車操法、小型ポンプ操法の3種目に、それぞれ2分団が出場し、操法と動作の正確さや機敏さを競いました。この日は、小雨の降るあいにくの天候でしたが、団員たちは、きびきびとした動作と正しい操法で訓練の成果を発揮しました。また、真剣な表情で訓練に取り組む姿に、見守る市民や団員からは大きな拍手が送られていました。

## 雨の野外ステージで熱演

●One step upぶっ飛びLive in 北秋田



▲雨の中、白熱したライブを繰り広げた「ぶっ飛びライブ in 北秋田」

北秋田最大級の音楽イベント「ぶっ飛びライブ in 北秋田」が、7月10日に空港周辺ふれあい緑地コンサート会場で初開催され、県内外から13団体が出演し、ロックやブルース、ダンスなどを熱演し観客を魅せました。この日は、朝からあいにくの雨に見舞われ、立ったまま傘を差したり、テントの中で雨宿りする来場者が目立ちました。地元北秋田市のアマチュアロックバンドが出演した、午前11時ごろからにぎわい始め、約500人が来場しました。ステージから力強い演奏や歌声が響くと、来場者からは拍手や掛け声が上がり、会場が一体となった白熱したライブが繰り広げられました。